

令和7年7月31日付茨城新聞に本校の記事が掲載されました

卒業生が進路助言

太田一高 後輩に経験伝える

県立太田一高（常陸太田市栄町、谷津勉校長）は6月から、同高出身の大学生が同高を訪問して生徒の学習などを支援する「チューター制度」を始めている。同高付属中学生も対象とし、キャリアサポートの強化が狙い。放課後に大学生が希望する生徒たちに進路相談や学習面のアドバイスを続けている。

大学生は平日の毎日、放課後の午後4時から、同高図書館などで相談希望の生徒に対応している。夏休みなど長期の休み期間は日程を決めて行い、年度内は実施していくという。

11日は4人の大学生が対応。自分の中高時代の生活や夢を持つきっかけ、受験勉強、大学生活などを簡単に紹介し、個別の相談に入った。受験や将来の仕事などについて考えていること

を「見える化」するマインドマップ制作も勧める。自習する生徒にも気軽に声をかけている。

同高3年の小泉沙亜耶さん（17）は「希望する大学の先輩が来ていると聞いて参加している。自分がしたいことと大学が合っているかを尋ね、今は進路を決めて頑張っている」と具体的な相談に足を運ぶ。

茨城大1年の須田煌生さん（18）は「同高独自の海外留学支援制度を活用して長期留学した。学校への恩返しであり、自分が培ってきたことを少しでも後輩に返すことができれば」と話す。

益子諭教頭は「どうして頑張れたかの良いお手本。学力だけでなく資質と能力の向上を図り、生徒たちにはさらに成長してもらいたい」と期待する。（飯田勉）



太田一高出身の大学生が在校生にアドバイスする＝常陸太田市栄町